

達第二百三十五號

昭和十七年度及昭和十八年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅逐艦一隻、潜水艦二隻、海防艦一隻、掃海艇二隻及驅潛艇一隻ニ左ノ通命名ス

昭和十八年十月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

舞鶴海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 冬 月 (フユツキ)

川崎重工業株式會社ニ於テ建造

伊號第十三潜水艦

三井造船株式會社ニ於テ建造

呂號第五十潜水艦

日本鋼管株式會社鶴見造船所ニ於テ建造

海防艦 草 垣 (クサガキ)

株式會社藤永田造船所ニ於テ建造

達

五五

0878

第三十八號掃海艇

第四十一號掃海艇

函館船渠株式會社ニ於テ建造

第五十五號驅潛艇

達第二百三十六號

昭和十七年度昭和十八年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅潛特務艇十二隻ニ左ノ通命名ス

昭和十八年十月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

有限會社福島造船鐵工所ニ於テ建造

第六十七號驅潛特務艇

第七十六號驅潛特務艇

西井造船所ニ於テ建造

第七十二號驅潛特務艇

第九十七號驅潛特務艇

0879

強力造船所ニ於テ建造

第七十三號驅潛特務艇

第九十八號驅潛特務艇

福岡造船鐵工株式會社ニ於テ建造

第七十五號驅潛特務艇

株式會社小柳造船所ニ於テ建造

第七十七號驅潛特務艇

株式會社林兼商店彦島鐵工所ニ於テ建造

第八十三號驅潛特務艇

株式會社四國船渠工業所ニ於テ建造

第八十九號驅潛特務艇

株式會社山西造船鐵工所ニ於テ建造

第九十二號驅潛特務艇

株式會社佐賀造船鐵工所ニ於テ建造

達

五五三

0880

第百號驅潛特務艇

達第二百三十七號

海軍工務規則中左ノ通改正ス

昭和十八年十月一日

海軍大臣 鳴田 繁 太郎

第十三條ノ二 主任、係官、係員、班長、役長、組長及伍長ハ率先範ヲ垂レ親愛以テ部下ヲ指導誘掖スベシ

第十三條ノ三 海軍工作廳長ハ必要ニ應ジ工員タル係員、班長、役長、組長又ハ伍長ノ職務補佐ヲ置クコトヲ得工員ヲ以テ之ニ充ツ

第十三條ノ四 班長、役長、組長、伍長及前條ノ規定ニ依ル職務補佐ノ命免ニ關シテハ海軍工作廳長ノ定ムル所ニ依ル

達第二百三十八號

海軍會計規程中左ノ通改正ス

0881

昭和十八年十月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

別表第四(甲) 歳入徴収官收入官吏並收入取扱區分表中第五海軍燃料廠長ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

多賀城海軍工廠長 多賀城海軍工廠 多賀城海軍工廠ノ收入 (海軍工廠資金 收入ヲ除ク)

同表中第六十一海軍航空廠長ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一海軍衣糧廠長 第一海軍衣糧廠部 第一海軍衣糧廠ノ收入

同(乙) 支出官、同代理官並各應經費取扱區分表中第五海軍燃料廠長ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

多賀城海軍工廠長 多賀城海軍工廠 多賀城工廠 本廠ノ支拂ニ屬スル經費 (工廠資金支 出ヲ除ク)

同表中第六十一海軍航空廠長ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一海軍衣糧廠長 第一海軍衣糧廠部 第一衣糧廠 第一海軍衣糧廠ノ支拂ニ要スル經費

達

五五五

0882

達第二百三十九號

海陸軍患者相互依託收療規則申左ノ通改正ス

昭和十八年十月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

「衛戍病院」ヲ「陸軍病院」ニ、「衛戍病院長」ヲ「陸軍病院長」ニ改ム

第三條 依託收療ニ要スル諸費ノ取扱ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 糧食費及治療費共ニ官費支辨ノ患者ニ在リテハ之ガ經費ハ徵收セザルモノトス
- 二 治療費ノミ官費支辨ノ者ニ在リテハ其ノ患者ヲ收療シタル海軍收療部又ハ陸軍病院ニ於テ當該海軍收療部又ハ陸軍病院ニ於ケル兵食定額ヲ本人ヨリ徵收シ整理スルモノトス
- 三 前各號以外ノ者ニ在リテハ一日分ノ收療費ヲ金八拾五錢（糧食費ハ前號ノ定額トシ其ノ殘餘ハ患者費トス）トシ其ノ患者ヲ收療シタル海軍收療部又ハ陸軍病院ニ於テ本人ヨリ徵收シ整理スルモノトス但シ入院當日ハ一日分ノ額トシ退院當日ハ算入セズ
- 四 官費ヲ以テ支辨スベキ依託患者ノ旅費ハ海軍ノ患者ニ在リテハ當該所轄應ニ於テ、陸軍ノ患者ニ在リテハ患者所屬ノ陸軍病院ニ於テ之ヲ支給ス護送者ノ旅費ニ付亦同ジ

達

五五七

0883

第四條 依託ノ範圍ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限ルモノトス

一 海軍給與令ノ定ムル所ニ依リ治療ニ要スル費用ヲ官費支辨ト爲スベキ患者ニシテ最寄海軍收療部ニ收療スルコト能ハザルトキ

二 前號以外ノ現役軍人(召集中ノ豫備役、補充兵役及國民兵役ノ軍人ヲ含ム)、軍屬ノ費用ヲ自辨ト爲スベキ患者ニシテ最寄海軍收療部ニ收療スルコト能ハザルトキ

三 戦時又ハ事變ノ際海軍部隊ノ選送患者ニシテ揚陸地ノ關係上已ムヲ得ズ一時陸軍病院ニ收療ヲ要スルトキ

第五條及第十六條中「症況」ヲ「傷病ノ狀況」ニ改ム

第六條中「且患者」ノ下ニ「(第四條第三號該當患者ヲ除ク)ノ第三條第一號乃至第三號ニ定ムル給與區分、」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第四條第三號該當患者ハ收容シタル日ヨリ患者所轄ノ依託患者トシテ取扱ヒ收容シタル陸軍病院ヨリ收容年月日、患者所轄名、官等級氏名、傷病等差及病名ヲ成ルベク速ニ患者ノ所轄長及依託陸軍病院所在地ノ所管鎮守府(海軍志願兵徵募區ニヨル)ノ海軍病院長ニ通報スルモノトス

第九條中「依託患者」ノ下ニ「(第四條第三號該當患者ヲ除ク)」ヲ加ヘ「海軍收療部」ヲ「海軍

0884

病院」ニ、「症況」ヲ「傷病ノ狀況」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第四條第三號該當患者ハ輸送ニ堪ヘザルモノヲ除クノ外成ル可ク速ニ最寄海軍病院ニ轉送スルモノトス

第十條中「送付スルモノトス」ヲ「送付シ依託患者轉送シタルトキハ之ヲ轉送先海軍病院長ニ送付スルモノトス但シ第十二條第三號該當患者ニシテ患者日誌ヲ有スルモノハ本患者日誌ヲモ併セ送付スルモノトス」ニ改ム

第十一條及第二十條中「制規ニ違ヒタル」ヲ「懲罰ニ付セラレベキ」ニ改ム

第十二條 依託ノ範圍ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限ルモノトス

一 海軍收療部ヲ置キ陸軍病院ヲ置カザル地ニ於ケル部隊所屬ノ下士官兵並ニ官費治療ニ屬スル准士官以上及軍屬トシ傷病ノ狀況上最寄陸軍病院ニ送致シ得ザルトキ

二 前號ニ規定スル者ノ外陸軍部隊ノ軍人軍屬ニシテ演習、派遣、公務旅行中發病シ附近ニ陸軍病院ナク傷病ノ狀況上特ニ必要アルトキ

三 戰時又ハ事變ノ際陸軍部隊ノ還送患者ニシテ揚陸地ノ關係上已ムヲ得ズ一時海軍病院ニ收容ヲ要スルトキ

達

五五九

0885



第十四條中「依託患者」ノ下ニ「(第四條第三號該當患者ヲ除ク)」ヲ加ヘ「竝病名」ヲ「病名及  
 第三條第一號乃至第三號ニ定ムル給與區分」ニ、「第十二條第二項」ヲ「第十二條第二號」ニ、  
 「本條」ヲ「前記」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

第十二條第三號該當患者ハ收容シタル日ヨリ海軍病院所在地最寄陸軍病院ノ依託患者トシテ取扱  
 ヒ收容シタル海軍病院ヨリ收容年月日、所屬部隊名、官等級氏名、傷病等差及病名ヲ成ルベク速  
 ニ關係陸軍病院ニ通報スルモノトス

第十八條中「依託患者」ノ下ニ「(第十二條第三號該當患者ヲ除ク)」ヲ加ヘ「患者ヲ依託地所管  
 ノ衛戍病院」ヲ「該患者ヲ所屬部隊所在地ノ陸軍病院」ニ、「症況」ヲ「傷病ノ狀況」ニ、「軍醫正  
 又ハ軍醫」ヲ「軍醫佐尉官」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第十二條第三號該當患者ハ輸送ニ堪ヘザル者ヲ除クノ外成ル可ク速ニ依託ヲ受ケタル陸軍病院ニ  
 轉送スルモノトス

第十九條中「退院シタルトキハ」ヲ「退院又ハ轉送ノ場合ハ」ニ、「死亡シタルトキハ」ヲ「死亡ノ  
 場合ハ」ニ改メ同條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第十二條第三號該當患者ニシテ病床日誌ヲ有スルモノハ該日誌ヲモ併セ送付スルモノトス

0886

達第二百三十九號 (後送ス)

達第二百四十號

經營需品定額表及艦營需品貸與品表中左ノ通改正ス

昭和十八年十月三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

艦營需品定額表中

航海長主管

區別	類別	番號	區分	品名	數稱	摘	要	記	事
同	同	一二	一九	乾電池	個				
同	消耗品	七	五	電球	個				
同	同	一二	一九	乾電池	個				
同	消耗品	七	五	電球	個				

運用長主管

達

五六二

0887

達

同	同	同	追加	同	同	同	同	同	同	削除	區別
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	備品	類別
五	五	五	五	三	一	一	一	一	一	一	類別
二二			一五	六	六〇			四四	三九	二〇	番號
											區供給
鐵	同	白	麻	外	鉄	同	同	消	救	吸	品
單	徑二〇耗	徑二耗	麻	衣		乙大	甲小	火	命	水	名
發		索	索	襪				器	衫	器	數稱
長	米	米	米	枚	個	個	個	甲大	甲	個	摘
三〇	機一適滑車用	機一〇〇耗滑車用	灰揚用及機一六耗及二〇耗								要
耗	機一適滑車用	機一〇〇耗滑車用									記
車				品名削除	品名削除	品名削除	品名削除				事
個	鉤付	組大	新機		現品ハ機關長主	現品ハ機關長主	現品ハ機關長主				
個	燧突用	組小	關設		移管ノ上衛替切鉄管ニ	移管ノ上衛替切鉄管ニ	移管ノ上衛替切鉄管ニ				
		夫々本品名ニ	定								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								
		名ニ	移								
		名ニ	管								





達

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	削除	改正	削除
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	備品
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
		三〇		二九		二八	二七			二二	一八	一八	
同	同	並行萬力	同	据付萬力	同	床萬力	手萬力	同	同	手	復水器管掃除矢柄	復水器管掃除矢	
大乙	小甲	大甲	小	大	乙	甲	力	小	中	大			
個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個
											番號改正	現品削除 機関長主管 品名削除 組替	

五六五

0891

同	削除	改正	削除	同	改正	同	同	同	同	同	同	削除
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	備品
五	五	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	五	五	七九	五九	初	初	四九	三五	三四		
同	鐵單滑車	携帶電燈	一號携帶電燈	空氣ポンプ小	罐管掃除矢柄	同	罐管掃除矢	泡沫發生器	鍍刷毛	鍍	並行萬力小	乙
個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個
		丸型乾電池挿入部寸法内徑約三六耗長サ約一三〇耗		馬力乃至一馬力程度								
		改正 從來ノ二號携帶電燈ヲ信號ノ上本品名ニ	品名削除 現品ハ機關長主管携帶電燈ニ組替	摘要改正	品名改正		現品ハ機關長主管 消耗品ニ組替	品名削除 現品ハ運用長主管ニ 移替				

達

五六六

0892

達

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	消耗品	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	五	五	五	五	五	五	
	五一	四九	四八	六	一六		一五		六	五		三		
二號乾電池	一號乾電池	鎚ノ柄	鎚ノ柄	泡沫消火自動車	ダイヤルゲージ	同乙	折尺甲	同小	白麻索大	タイル麻索	鐵三滑車	同乙	鐵複滑車甲	
個	個	個	個	臺	個	個	個	米	米	米	個	個	個	
品名削除 電池ニ組替 機關長主管乾	品名削除 工ノ部ニ移替 工作長主管金	品名削除	品名削除	品名削除	品名削除 工ノ部ニ移替 工作長主管金	品名削除 工ノ部ニ移替 工作長主管金	品名削除 工ノ部ニ移替 工作長主管金	品名削除 工ノ部ニ移替 工作長主管金	品名削除 工ノ部ニ移替 工作長主管金	品名削除 工ノ部ニ移替 工作長主管金	品名削除 工ノ部ニ移替 工作長主管金	品名削除 工ノ部ニ移替 工作長主管金	品名削除 工ノ部ニ移替 工作長主管金	品名削除 工ノ部ニ移替 工作長主管金

五六七

0893



達

五六八

同	追加	區別	類別	番號	區供給	品名	數稱	摘要	記事
同	同	同	同	一三四		鉋	個	目、荒目、三角、中目、波形、中目ノ各種	新規設定 機關長主管ヨリ移管 本品名ニ組替
同	追加	同	同	一三三		手鉋	個	七〇〇、一〇〇、四五〇、 木柄付	
同	同	同	同	六二		復水器管掃除矢	個	型式ハ罐ノ構造ニ依リ適宜 徑適宜	新規設定
同	同	同	同	六二		罐管掃除矢	個	甲、鋼板、鋼釘金又ハ毛製 乙、鋼釘金製 外部用	
同	同	同	同	一三二		同	個		本品名ハ運用長主管ニ 移管
同	同	同	同	一三二		同	個		本品名ハ運用長主管ニ 移管
削除	同	同	同	五三	陸	泡沫消火劑	個		本品名ハ運用長主管ニ 移管
改正	消耗品	同	同	五一	陸	乾電池	個		本品名及番號改正 従来ノ三號乾電池ヲ 本品名ニ改正

工作長主管金工之部

0894

達

經營需品貸與品表中  
航海長主管

同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	消耗品	同	同	同	同	同	同	同
一一二	一一二	一一	一一	一	一	一	一	一
二二三	二二二	八	七	一三九	一三八	一三七	一三六	一三五
鏈	鋸	ダイヤルゲージ	折	並行	据付	床	手	鋸
ノ	ノ		尺	萬	萬	萬	萬	刷
柄	柄			力	力	力	力	毛
個	個	個	個	個	個	個	個	個
		附屬品共 機關整備並ニ工業用	自英佛三國月盛ノモノ 長サニ米不銹鋼又ハ木製	兩口(一方ハ管用)頭部廻轉 式、片口引出式 口幅凡一〇〇、一五〇耗	口幅凡一〇〇、一五〇耗	移動シ取付クルモノ 凡四種 口幅凡七六耗		
			新規設定 ノ折尺甲乙ヲ本品名 ニ組替	新規設定 小ノ並行萬力甲大、甲 本品名ニ組替	新規設定 品ノ据付萬力大小ヲ本 品ニ組替	新規設定 名ノ機關長主管ヨリ移 ノ床萬力甲乙ヲ本品 名ニ組替		新規設定

五六九

0895

削除		區別	品名		數稱	摘要	貸與スル場合	記事
甲類	泡沫發生器	類別	品名	數稱	摘要	貸與スル場合	記事	
追加	同	乙類	救命衫甲	個		臨時必要ノ時	新規設定 品名削除	
追加	同	乙類	液化炭酸ガス容器	個			品名削除 現品ハ機關長主管ニ 移管ノ上炭酸ガス容 器ニ租替	
追加	同	甲類	救命衫甲	個		臨時必要ノ時	新規設定 品名削除	
追加	同	甲類	泡沫發生器	個		臨時必要ノ時	新規設定 品名削除	
機關長主管								
削除		區別 <th colspan="2">品名</th> <th>數稱</th> <th>摘要</th> <th>貸與スル場合</th> <th>記事</th>	品名		數稱	摘要	貸與スル場合	記事
甲類	輕便信號電燈	類別	品名	數稱	摘要	貸與スル場合	記事	
追加	同	甲類	輕便信號電燈	個			品名削除	
運用長主管								
追加	同	甲類	輕便信號電燈	個			品名削除	

0896

達第二百四十二號

燃料油及潤滑油試験法中左ノ通改正ス

別圖ハ海軍省軍需局長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十八年十月六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第二十九號「セタン」價測定法ノ次ニ左ノ如ク加フ

第三十號「グリース」稠度測定法

本法ニ依リ「グリース」稠度ヲ測定ス

一、一般規定

- (イ) 本法ハ四〇〇以下ノ稠度ヲ有スル「グリース」竝ニ「ペトロラタム」ニ適用ス
- (ロ) 稠度ハ二般ニ捏和器ニテ捏和シタル試料ニツキ測定スルモノトス
- (ハ) 「ペトロラタム」ノ稠度ハ捏和セザル試料ニツキ測定スルモノトス
- (ニ) 稠度ハ五回ノ平均値ヲトル 各測定値ト平均値ト差ハ後者ノ三%ヲ超ユルベカラズ 若シ三%以上ノ差ヲ生ジタル場合ハ十回ノ平均値ヲトルベシ

達

五七一

0897

二、試料

(イ) 試料ハ變質ナキ均ニ組成ヲ有スルモノナルヲ要ス

(ロ) 「ペトロラダム」ハ熔融後測定溫度マデ冷却シタル後捏和スルコトナク測定ニ供スベシ

三、器具

稠度計ハ第三十ノ二圖ニ示スモノニシテ次ノ規格ニ適合スルヲ要ス

(イ) 貫入圓錐

眞鍮製圓錐ト取外シ可能ナル不銹鋼製尖端トヨリ成リ其ノ形狀寸法ハ第三十ノ二圖ニ示セルモノ圓錐及尖端ノ外側表面ハ極メテ平滑ニ研磨仕上グヲ施シ其ノ重量ハ正確ニ二〇・二・五瓦ニシテ圓錐及附屬物タル稠度計ノ圓棒トヨリ成ル全荷重ハ二五〇瓦タルベシ

(ロ) 目盛板

貫入圓錐ノ貫入距離ヲ〇・二耗迄正確ニ測定シ得ルモノナルヲ要ス

(ハ) 捏和器

形狀寸法ハ第三十ノ三圖ニ示セルモノ

(ニ) 恒溫槽

所要温度ノ前後攝氏〇・五度以内ニ長時間保持シ得ルモノニシテ其ノ形状ハ適宜トス

#### 四、測定法

試料ヲ空氣ノ混入セザル如ク「グリース」捏和器中ニ満たス

捏和器ニテ捏和スル前ニ試料温度ヲ恒温槽中ニテ約一乃至二時間保持シ所定温度ノ前後攝氏一度

トナシ恒温槽ヨリ取出シ突キ込ミ手ヲ六〇回往復シテ充分ニ捏和シ蓋ヲ取外シ恒温槽中ニテ更ニ

試料温度ヲ所定温度ノ前後攝氏〇・五度ニ正確ニ調節スルモノトス

次ニ之ヲ取出シ「ナラシ」板ヲ以テ試料表面ヲ平滑トナシ稠度計ノ試験臺上ニ載セ貫入圓錐ヲ稠

度計ノ圓棒ニ取付ケ其ノ尖端ガ試料容器ノ中心點ニ於テ試料表面ニ接觸スル如クシ、試料表面上

ニ生ズル圓錐尖端ノ影ヲ附屬鏡ニヨリ注視シテ正確ニ此ノ位置ニ支持スルモノトス稠度計目盛板

ノ指針ヲ零度ニ調節シ鉛ヲ押し錘ノ自重ニテ圓錐ヲ落シ五秒間試料中ニ貫入セシメテ鉛ヲ放テ目

盛板上ノ示度ヲ讀ミ之ヲ稠度トナス而シテ試料ヲ恒温槽ヨリ取出シ稠度測定ニ移ル操作ハ迅速ニ

行フヲ要ス

一回測定ヲ終レバ直チニ試料表面ヲ空穴ノ生ゼザル様注意シ平滑ニナシ次回測定ヲ行フ

但シ攝氏零度以下ニテ稠度ヲ測定スル場合ハ豫メ常温ニ於テ捏和器ニ捏和セル後之ヲ恒温槽ニス

レ一乃至二時間保持シ所定温度ノ前後攝氏〇・五度ニセルモノニツキ測定スルモノトス  
第三十一號「グリース」滴點測定法

本法ニ依リ「グリース」ノ滴點ヲ測定ス

一、一般規定

(イ) 本試験ハ變質ナキ均一組成ヲ有スル試料ニツキ行フベシ

(ロ) 滴點ハ五回ノ平均値ヲトル

(ハ) 寒暖計ハ滴點攝氏一一〇度未満ノ試料ニハ二號寒暖計ヲ、攝氏一一〇度以上ノ試料ニハ二號

寒暖計ヲ使用スルモノトス

二、器 具

(イ) 一號及二號寒暖計第三十一圖ニ示セルモノニシテ次ノ規格ニ適合スルヲ要ス

型 式 硝子製二重水銀寒暖計

全 長 二三〇耗

硝子幹 水銀球下端ヨリ約二三耗ハ一重硝子幹ニシテ其ノ直徑四耗其ノ他ノ部分ハ二

重硝子幹ニシテ其ノ内部ニ「エナメル」ヲ施シタル刻度板ヲ收メ其ノ直徑一

0900

○耗

水銀球

優良ナル硝子ヨリナリ長サ約七耗ニシテ其ノ直徑四耗

膨脹室

不 要

毛細管充填瓦斯

窒 素

刻度範圍

一號寒暖計 攝氏零度ヨリ一二〇度迄

二號寒暖計 攝氏五〇度ヨリ二〇〇度迄

刻 度

一號寒暖計ノ零度及二號寒暖計ノ五〇度ハ水銀球下端ヨリ六〇±五耗、一

號寒暖計ノ一二〇度及二號寒暖計ノ二〇〇度ハ寒暖計ノ上端ヨリ六五±一

五耗ニシテ一度毎ニ刻度シ各五度毎ニ刻度線ヲ長クス又各一〇度毎ニ數字ヲ

記入ス特種記號トシテ一號寒暖計ニアリテハ攝氏八〇度、二號寒暖計ニアリ

テハ攝氏一二〇度刻度線ヲ赤線トス

超ユベカラズ

正 確 度

度量衡檢定所ノ檢定ヲ受ケタルモノニシテ各刻度ニ於ケル誤差ハ $\frac{1}{2}$ 度ヲ

(甲) 試料壺及金屬管

達

五七五

0901



試料壺ハ黄銅「ニッケル」鍍金製ニシテ滴下孔ノ内徑三耗、其ノ形狀寸法ハ第三十一圖ニ示セルモノ

金屬管ハ黄銅「ニッケル」鍍金セルモノニシテ其ノ形狀寸法ハ第三十一圖ニ示セルモノ

### 三、測定法

黄銅製試料壺ニ試料ヲ壓入シ氣孔ヲ含マザル如ク充タシ之ヲ金屬管ニ嵌入シ過剩分ノ試料ヲ除キタル後、第三十一圖ニ示セル如ク「コルク」栓ニテ塞腰計ヲ試料壺ノ下端ガ試験管底部ヨリ約三〇耗上ニアル如ク試験管中ニ支持ス試験管ハ透明ナル油浴中ニ垂直ニ懸垂ス

油浴ハ滴點下攝氏一〇度附近ニ達スル迄毎分攝氏四乃至五度上昇ノ割合ニ一〇度以内ニ達スレバ毎分一乃至二度上昇ノ割合ニ加熱ス

滴點ハ試料最初ノ一滴ガ落下スルトキノ溫度トス

### 第三十二號「グリース」分析法

本法ニヨリ「グリース」中ニ含有セララルル夾雜物、石鹼分、「グリセリン」、脂肪礦油分、遊離「アルカリ」遊離脂肪酸及灰分ヲ定量スルモノトス

### 一、一般規定

0902

(イ) 試料ハ豫メ充分混合シ均一トナシ石鹼含有量ニ應ジテ一〇―三〇瓦ヲ小数點以下一位マデ正確ニ秤量スベシ

(ロ) 各成分含有量ハ重量百分率ヲ以テ表示シ小数點以下一位迄算出スルモノトス

(ハ) 「カルシウム」石鹼或ハ「ナトリウム」石鹼ヲ含有スル「グリーン」ノ如ク比較的淡色ノモノハ第一法ニヨリ其ノ他ノ暗色「グリーン」ニシテ第一法ニヨリ處理シ難キ場合ハ第二法ニ依リ分析スルモノトス

(ニ) 「グリセリン」ハ定性試験ノミ行フモノトス

(ホ) 本試験ハ二回以上施行シ其ノ平均値ヲ探ルモノトス

## 二、試 藥

(イ) 輕揮發油

初溜攝氏六〇度以下、乾點攝氏九五度以下ニシテ次記空試験ニ合格スルモノ、即チ三〇〇瓦三角「フラスコ」中ニ輕揮發油一二五瓦、 $1\frac{1}{2}$ 規定「アルコール」性苛性カリ一〇瓦及五〇%中性「アルコール」五〇瓦トヲ探リ内徑約七耗、長サ七五細硝子管ヨリナル逆流冷却器ヲ附シテ二・五時間温溶上ニテ加温シ冷却後 $1\frac{1}{2}$ 規定鹽酸ニテ「フェノールフタレン」ヲ指示藥ト

達

五七七

0903

シテ滴定シ中和ニ要スル 1-2 規定鹽酸量九・八珎以下ナラザルヲ要ス空試験ニ要シタル「アルカリ」量ハ脂肪定量ノ際空試験補正值トシテ差引クモノトス

(ロ) 五〇%「アルコール」

無水「アルコール」又ハ九五%「アルコール」ヲ蒸溜水ニテ稀釋調製シ苛性「ソーダ」又ハ苛性カリヲ以テ正確ニ中性トナスベシ

(ハ) 「フェノールフタレン」液

第三號反應試驗法ニ於ケルモノニ全ジ

(ニ) 1-2 規定「アルコール」性苛性カリ液

第二十號鹼化價測定法ニ於ケルモノニ全ジ 規定鹽酸液ニテ滴定シ力價ノ係數ヲ定ムベシ

(ホ) 1-2 規定鹽酸液

第二十號鹼化價測定法ニ於ケルモノニ全ジ

(ヘ) 1-10 規定「アルコール」性苛性カリ液

純苛性カリ六・四珎ヲトリ成ル可ク少量ノ水ニ溶解シ九六%「アルコール」ニテ稀釋シ全容ヲ一立トナシ二―三日放置セル後析出セル沈澱ヲ濾過除去シ 1-10 規定鹽酸液ニテ滴定シ力價ノ係

0904

數ヲ定ムベシ

(ト) 1/10 規定鹽酸液

標準「アルカリ」規定液ニヨリ滴定シ力價ノ係數ヲ定ムベシ

(チ) 一〇%鹽酸液

三、方 法

第一法

(イ) 夾雜物

充填劑ヲ含ム場合ハ試料一〇乃至三〇瓦ヲ小「ビーカー」ニ秤量シ輕揮發油七五瓦及一〇%鹽酸五〇瓦ヲ加ヘ湯煎上ニテ石鹼分ガ完全ニ溶解スル迄攪拌シ若シ不溶性礦物質其ノ他ノ充填劑ガ存在セバ二層ニ分離ス

之等ヲ既知重量ノ「グーチ」坩堝ニテ濾過シ坩堝ヲ順次水、輕揮發油、無水「アルコール」ニテ洗滌ス「アルコール」洗滌後坩堝ヲ攝氏一二〇度ニテ乾燥秤量シ夾雜物ノ重量ヲ算出ス夾雜物トシテハ「グラファイト」、雲母、滑石、「アスベスト」、石膏、木材及「バルブ」等ナリ充填劑トシテ石膏ノ存在セル場合ハ前項ニ於テ定量セル結果ハ概ネ硫酸「カルシウム」ガ鹽酸ニ

達

五七九

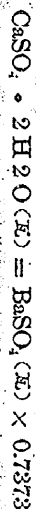
0905

可溶ナル爲過小トナル

試料約五瓦ヲ「ビーカー」ニ秤量シ輕揮發油五〇坩及濃鹽酸二五坩ヲ加ヘテ湯煎上ニテ全石膏分ガ溶解スル迄加温ス冷却後「ビーカー」内容物ヲ分液漏斗ニ注グ尙「ビーカー」内ノモノヲ分液漏斗ニ水及少量ノ輕揮發油ニテ洗ヒ落シ漏斗内ノ溶液ヲ靜置分離セシム

下層ハ「ビーカー」ニ移シ漏斗内輕揮發油層ハ一〇%鹽酸二〇坩ニテ二回洗滌シ洗滌液ヲ「ビーカー」中ノ鹽酸液ニ加フ「ビーカー」中ノ鹽酸液ハ湯煎上ニテ蒸發乾涸セル後一五〇坩ノ水ニテ稀釋シ沸騰スル迄加熱シ一〇%鹽化「バリウム」溶液ニテ處理ス生成セル硫酸「バリウム」ハ濾過シ常法ニ從ヒ灼熱シテ硫酸「バリウム」(BaSO<sub>4</sub>)ノ量ヨリ硫酸「カルシウム」(CaSO<sub>4</sub>)ノ量ヲ CaSO<sub>4</sub>・2H<sub>2</sub>O トンテ算出ス

計算式



(ロ) 石鹼分

夾雜物ヲ含マザル場合ハ試料一〇乃至三〇瓦ヲ分液漏斗ニ秤量シ輕揮發油七五坩及一〇%鹽酸五十坩ヲ加ヘ充分振盪シ完全ニ分解ス

分解困難ナル際ハ之ヲ「フラスコ」ニ採リ逆流冷却器ヲ附シ湯煎上ニテ加熱シ完全ニ分解スベ

0906

シ夾雜物ヲ含有スル場合ハ前項夾雜物定量ヨリノ濾液及洗滌液ヲ分液漏斗ニ移ス静置後分離セ  
ル水溶液層(A)ハ他ノ分液漏斗ニ移ス、輕揮發油層(B)ハ水二五㊦ニテ三回洗滌シ洗滌液ハ(A)ニ加  
フ水溶液(A)ハ輕揮發油二〇㊦ニテ二回洗滌シ洗滌輕揮發油ヲ水一五㊦ニテ一度洗滌後輕揮發油  
溶液(B)ニ加フ其ノ色調比較的淡色ナルトキハ遊離脂肪酸及石鹼脂肪酸ノ近似定量ヲ容量法ニヨ  
リテ行フ即チ1.2規定「アルコール」性苛性カリ液ニテ滴定シ平均中和價二〇〇ヲ以テ算出  
スベシ

若シ色調暗色ナルトキハ數滴ノ「フェノールフタレン」及過剩ノ1.2規定「アルコール」性  
苛性カリ液ヲ加ヘ激シク振盪後「アルコール」層ガ明カニ「アルカリ」性反應ヲ呈スルニ至ラ  
シム静置後分離スル下層ノ「アルコール」層(C)ヲ他ノ分液漏斗ニ移ス上層ノ輕揮發油溶液(D)ハ  
夫々五〇%「アルコール」ノ三〇、二五、及二〇㊦ニテ洗滌シヨノ洗滌液ヲ(C)ニ合ス溶液(C)ヲ輕  
揮發油二五㊦ニテ洗滌後「ビーカー」ニ移シ輕揮發油ハ(D)ニ併ス溶液(C)ハ小容積トナル迄「ア  
ルコール」ヲ蒸發セシメ次ニ温水ニテ分液漏斗中ニ洗ヒ注ギ鹽酸ニテ酸性トナシタル後輕揮發  
油五〇㊦及二五㊦ニテ二回抽出ス抽出液(E)ヲ他ノ漏斗ニ移シ二〇㊦ノ水ニテ二回洗滌後重量既  
知ノ「ビーカー」ニ移シ湯煎上ニテ蒸發乾涸ス更ニ無水「アルコール」五㊦ヲ加ヘ蒸發シ更ニ

達

五八二

0907

恒溫槽中ニテ攝氏一〇〇—一〇五度ニテ一時間加熱シ最後ノ痕跡水ヲ除キ秤量ス次ニ其ノ中和價ヲ正確ニ測定シ全脂肪酸量ヲ算出ス別ニ遊離脂肪酸ヲ定量シ全脂肪酸トノ差ヨリ石鹼量ヲ算出スベシ若シ混合石鹼ヨリ成ルトキハ灰分析ヨリ其ノ割合ヲ求メ夫々ノ石鹼量ヲ算出ス

(ハ) 「グリセリン」

脂肪酸或ハ脂肪酸ノ何レヨリ製造セラレタル場合ニ於テモ「グリセリン」ノ存否試験ノ必要ナル場合ハ前項ノ溶液(A)ニ乾燥炭酸「ソーダ」ヲ「カルシウム」其ノ他ノ金屬ヲ沈澱スルニ充分ナル過剰量ヲ加ヘ次ニ全體ヲ蒸發乾涸シ残渣ヲ數回九五%「アルコール」ニテ抽出シ抽出液ヨリ「アルコール」ヲ蒸發セシム其ノ残渣ハ主トシテ「グリセリン」ト少量ノ鹽化「ナトリウム」ヲ含ムヲ以テ之ヲ定性的ニ試験ス

注意

脂肪酸ハ鹼化ニ依リテ一〇—一%ノ「グリセリン」ヲ生成スルヲ以テ本法ニヨル時ハ脂肪酸ヲ原料トセル「グリース」成分ノ百分率ハ常ニ一〇〇以下トナルベシ

(ニ) 脂肪

前項(ロ)ノ輕揮發油溶液(B)ハ遊離脂肪、礦油及不鹼化物ヲ含有ス之ヲ三〇〇瓊三角「フラスコ」

0908

ニ移シ約一二五珎ニ濃縮後 1-2 規定「アルコール」性苛性カリ液一〇珎及九五%中性「アルコール」五〇珎ヲ加ヘ逆流冷却器ヲ附シテ一・五時間温浴上ニテ加温シ過剩ノ「アルカリ」ヲ

1-2 規定鹽酸ニテ滴定シ鹼化價ヲ一九五トシテ遊離脂肪ヲ次式ニヨリ算出スベシ

$$\text{計算法} \quad \text{遊離脂肪\%} = \frac{28.05 \times C \times (b-a)}{S} \times \frac{100}{195}$$

但シ S 試料ノ重量(珎)

a 本試験ニ要シタル鹽酸規定液量(珎)

b 空試験ニ要シタル鹽酸規定液量(珎)

c 鹽酸規定液ノ係數

(ホ) 礦油

前項滴定後ノ溶液ヲ分液漏斗ニ移シ輕揮發油層ト「アルコール」層トニ分ツ「アルコール」溶液ヲ少量ノ輕揮發油ニテ洗滌シ洗滌輕揮發油ヲ前者ニ加ヘ之ヲ重量既知ノ「ビーカー」ニ移シ湯煎上ニテ蒸發乾涸シ更ニ恒温槽中ニテ攝氏一〇〇—一〇五度ニテ一時間加温冷却後其ノ殘量ヲ礦油及不鹼化物ノ量トス

礦油分ノ性狀試験ニハ別ニ試料一五〇—二〇〇珎ヲ前述ノ如ク分解セルモノニツキ行フベシ

達

五八三

0909



## 第二法

本法ハ暗色「グリース」ノ分析試験法ニシテ試料一〇乃至三〇瓦ヲ徑約一〇糎ノ磁製蒸發皿ニ秤量シ一〇瓦ノ粉狀酸性硫酸カリ及一〇瓦ノ乾燥砂ヲ混シ湯煎上ニテ約二時間時々攪拌シツツ加熱シ水分ヲ除去ス

冷却後塊狀物ヲ乳棒ニテ碎キ混合物ヲ「ソクスレー」抽出器用圓筒濾紙中ニ移ス乳鉢中ニ殘レルモノハ少量ノ輕揮發油ニテ濾紙中ニ洗ヒ移ス次ニ輕揮發油ニテ完全ニ抽出シ必要アラバ抽出液ヲ濃縮シ遊離脂肪酸及石鹼脂肪酸ヲ第一法(B)溶液ニ於ケル如ク1-2規定「アルコール」性苛性カリ液ニテ滴定ス爾後ノ操作ハ第一法(ロ)、(ニ)及(ホ)ニ記載セルト同一ナリ

(ハ)「アスファルト」及「タール」物質

前項石油「エーテル」抽出後ノモノヲ二硫化炭素ニテ抽出シ抽出液ヲ蒸發乾涸シ攝氏一二〇度ニテ一時間乾燥後秤量シ「アスファルト」質及「タール」質ト爲ス

(ト) 遊離「アルカリ」

試料一〇乃至三〇瓦ヲ小「ビーカー」ニ秤量シ中性輕揮發油七五瓦ニテ完全ニ溶解シ混合物ヲ三〇〇瓦三角「フラスコ」ニ洗ヒ落ス之ニ九五%「アルコール」五〇瓦及數滴ノ「フェノール

0910

フタレン」ヲ加へ内容物ヲ激シク振盪ス數秒靜置後「アルコール」層ガ淡紅色ヲ呈スレバ  $\frac{1}{10}$  規定鹽酸液一〇ㄆヲ加へ溶液ヲ一〇分間湯煎上ニテ加温シ炭酸瓦斯ヲ驅除シ過剰ノ酸ヲ  $\frac{1}{10}$  規定「アルコール」性苛性カリ液ニテ逆滴定ス  
 遊離「アルカリ」ハ苛性「ソーダ」トシテ計算スベシ

計算法

$$\text{遊離「アルカリ」(NaOH)\%} = \frac{0.40 \times N}{10} \text{HCl (ㄆ)} \div \text{試料量 (ㄆ)}$$

(チ) 遊離脂肪酸

前項遊離「アルカリ」定量ニ於テ「アルコール」層ガ淡紅色ヲ呈セザル場合之ヲ  $\frac{1}{10}$  規定「アルコール」性苛性カリ液ニテ滴定ス而シテ「アルコール」性苛性カリ液ヲ添加毎ニ激シク振盪ス遊離脂肪酸量ハ「オレイン」酸トシテ計算スベシ

注意

鐵、亜鉛、「アルミニウム」或ハ其ノ他弱鹽基石鹼ノ存在スル場合ハ之等金屬石鹼ガ苛性カリト作用スル爲前記方法ニ依リテ遊離脂肪酸ノ定量ハ不可能ニシテ之ノ場合ハ試料一〇乃至三〇ㄆヲ中性無水「アルコール」五〇ㄆニテ振盪抽出シ靜置後上澄液ヲ濾過シ更ニ新ニ中性

達

0911

無水「アルコール」五〇ㇼニテ本操作ヲ三回繰返シ濾液ヲ集メテ1/10規定「アルコール」  
性苛性カリ液ニテ滴定スベシ

計算法 遊離脂肪酸〔「オレイン」酸〕% =  $\frac{2.820 \times N}{10}$  「アルコール」性苛性カリ(ㇼ)

(リ) 灰分

試料二乃至五ㇼヲ磁製坩堝ニ秤量ス若シ鉛及亞鉛石鹼ノ存在セザル場合ハ白金坩堝ヲ使用スル  
ヲ便トス可燃性物質ヲ靜カニ蒸發燃焼セシメ殘滓ガ炭化スルニ及ビテ徐々ニ之ヲ灼熱シテ灰化  
セシメ「デシケーター」内ニ於テ冷却セル後秤量シ再三灼熱冷却ヲ反覆シテ秤量シ恒量ヲ得ル  
ニ至リテ止ム

(一) 灰分ノ定性試験

溶融性且ツ水ニ可溶性ニシテソノ水溶液ガ強「アルカリ」性ヲ呈スル時ハ「ナトリウ  
ム」又ハ加里或ハ兩者ノ混合物ヨリナルコトヲ示ス

白色不溶融性ニシテ大部分水ニ不溶ナレドモ水ニ「アルカリ」性反應ヲ呈スル時ハ「カルシ  
ウム」ヨリナルコトヲ示ス「アルミニウム」ノ混ズル場合モ同様ノ反應ヲ呈ス亞鉛ノ場合ハ

0912

温時ニ於テ黄色ヲ呈シ鉛ハ金屬粒トナリ或ハ冷時ニ於テ黄色ヲ呈ス

(二) 灰分ノ定量試験

定量試験ハ常法ニヨリ行フベシ但シ其ノ方法ノ選擇ハ定性試験ノ結果ニ基キテ適宜選擇スベシ若シ石鹼一種類ヨリ成ル時ハ定量試験ハ一般ニ必要ナシ

第三十三號「グリース」安定度試験法

一、一般規定

- (イ) 試料ハ變質ナキ均一組成ヲ有スルモノナルベシ
- (ロ) 本試験ハ二個以上ノ試料ニ就テ行フベシ
- (ハ) 安定度ハ良又ハ不良トシテ表示ス

二、器 具

- (イ) 硝子製「ビーカー」  
揮發分測定用硝子製「ビーカー」ト同一ニシテ形狀寸法ハ第十七圖ニ示セルモノ
- (ロ) 電気加熱式恒溫槽  
攝氏一七〇度以上ニ加熱シ得ルモノニシテ廻轉式ノモノ(第二十三圖ハ其ノ一例ヲ示ス)

達

五八七

0913

## 三、方 法

清淨ニシテ乾燥セル揮發分測定用「ピーカー」ニ試料約二五瓦ヲ秤取シ豫メ試験溫度ニ調節セル電氣恒溫槽内ニテ正確ニ所定時間加熱セル後之ヲ取出シ「デシケーター」内ニテ常溫迄放冷シ變色及礦油分離等ヲ認メザル時ハ安定度ヲ良トス  
 連續加熱ヲ行ヒ難キ場合ニアリテハ加熱ヲ中斷スルコトヲ得但シ其ノ回數ハ可及的之ヲ尠カラシムルト共ニ加熱中斷中ハ試料ヲ必ズ「デシケーター」内ニ保持スベシ

## ○正誤

達第二百十八號四八一頁中「燃料（機關日誌甲ノミ）」ハ「燃料（機關日誌乙ノミ）」ノ、同第二百二十號四九三頁中「五月五日及十一月五日」ハ「六月五日及十二月五日」ノ孰モ誤

0914

達第二百四十二號

航空兵器經理規程左ノ通定ム

昭和十八年十月八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

航空兵器經理規程

目次

第一章 總則

第二章 供給

第三章 還納

第四章 受入、保管轉換及補充請求

第五章 毀損、亡失、修理及消耗

第六章 廢品處分

第七章 帳簿及報告

第八章 雜則

達

五八九

0915

## 第一章 總則

第一條 本規程ハ航空兵器ノ經理ニ關スルコトヲ規定ス

第二條 本規程ニ於テ航空兵器(以下單ニ兵器ト稱ス)ト稱スルハ海軍航空本部主務兵器ヲ謂フ

第三條 兵器ノ制定及名稱ハ特令又ハ兵器簿ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ外必要アル場合ニ於テハ兵器名稱及細目ニ關シ海軍航空本部長ヲシテ所要ノ向ニ通牒セシム

第四條 兵器ハ之ヲ備品及消耗品ニ區分シ飛行長及通信長(航空)ノ各主管ニ分チ飛行長主管兵器

ハ更ニ第一類、第二類及第三類ニ類別ス

兵器ノ品目ハ備品ハ別表第一號、消耗品ハ別表第二號ノ如ク之ヲ定メ各使用ノ目的ニ應ジ別表第

三號ノ如ク種別又ハ細別ス

第五條 前條ノ兵器中別表第四號ニ掲グル兵器ヲ航空廠整理兵器ト稱ス

航空廠整理兵器ハ海軍航空廠ニ於テ之ヲ調達スルモノトシ所要豫算ハ毎年度初頭之ヲ告達ス

第六條 航空廠整理兵器中別表第五號ニ掲グル兵器ハ必要ニ應ジ艦船部隊ニ於テ之ヲ直買スルコト

ヲ得

艦船部隊ノ直買豫算ハ毎年度初頭海軍航空本部長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ通牒セシム

0916

第七條 海軍航空本部長ハ兵器及之ニ關聯スル兵備品ノ準備供給ニ關シ海軍艦政本部長及海軍省軍需局長ト互ニ氣脈ヲ通ズベシ

第八條 本規程中鎮守府司令長官又ハ鎮守府ニ關スル規定ハ夫々警備府司令長官又ハ警備府ニ、海軍航空廠長又ハ海軍航空廠ニ關スル規定ハ夫々海軍航空廠支廠長又ハ海軍航空廠支廠ニ之ヲ準用ス

第九條 本規程ニ規定ナキ場合又ハ本規程ニ依リ難キ特種ノ事情アル場合ニ於テハ理由ヲ具シ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ之ヲ處理スベシ

## 第二章 供給

第十條 艦船部隊、學校等ニ供給スベキ主要兵器ノ定數ハ兵器簿ニ依リ之ヲ定ム但シ主要兵器ニ附隨シテ供給ヲ必要トスル兵器及訓練等ノ爲必要ナル消耗兵器ニ付テハ海軍航空本部長ヲシテ所要ノ向ニ通牒セシム

第十一條 前條ニ規定スル場合ヲ除クノ外兵器ノ供給ヲ必要トスルトキハ海軍大臣之ヲ鎮守府司令長官ニ訓令ス

鎮守府司令長官前項ノ訓令ヲ受領シタルトキハ海軍航空廠長ヲシテ之ヲ供給セシムベシ

達

五九〇ノ二

0917



第十二條 裝備其ノ他ノ訓令又ハ契約ニ基キ必要トスル兵器及別表第六號ニ掲グルモノ以外ノ兵器ノ供給ニ關シテハ海軍航空本部長ヲシテ海軍航空廠長ニ通牒セシム

第十三條 兵器ハ最寄海軍航空廠ニ於テ之ヲ供給ス

兵器供給準備ノ爲ノ各海軍航空廠ノ準備擔任區分ハ別表第七號ニ依ル

第十四條 兵備品取扱主任又ハ兵備品補給主任本規程ニ依リ兵器ノ供給ヲ受ケントスルトキハ兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任若ハ兵備品取扱主任ニ之ヲ請求スベシ此ノ場合ニ於テハ證憑様式ニ依リ請求票ヲ調製送付スルモノトス但シ特別ノ場合ニ於テハ電報其ノ他適宜ノ方法ニ依ルコトヲ得

第十五條 兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任兵器ヲ供給スルトキハ左ノ各號ニ依ルベシ

一 艦船部隊、學校等ニ必要ナル兵器ハ當該艦船部隊、學校等ノ兵備品取扱主任ニ之ヲ供給ス

二 未成艦船又ハ部隊ニ必要ナル兵器ハ當該艦船部隊ノ兵備品取扱主任又ハ艦裝具、工事主任官若ハ監督官ニ之ヲ供給ス

三 第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ依ル兵器ハ當該委員長若ハ委員長ノ指定スル委員又ハ工事主任官若ハ監督官ニ之ヲ供給ス

0918

四 兵備品補給擔任應ニ於テ補給用トシテ必要ナル兵器ハ當該應ノ兵備品補給主任ニ之ヲ供給ス  
第十六條 前條第二號ノ規定ニ依リ工事主任官又ハ監督官ノ供給ヲ受ケタル兵器ハ工事完成ノトキ  
當該艦船部隊ノ兵備品取扱主任ニ之ヲ引繼供給スベシ

第十七條 兵備品取扱主任第十條但書ノ規定ニ依ル消耗兵器ノ補充供給ヲ受ケントスルトキハ請求  
票記事欄ニ定數、現有數(分母ヲ定數、分子ヲ現有數トス)及當月ノ受入數ヲ括弧ヲ附シ記註ス  
ベシ

第十八號 兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任若ハ兵備品取扱主任備品ヲ供給シタルトキハ之ヲ海  
軍航空本部長ニ通報スベシ

前項ノ通報ハ請求票又ハ供給票ノ寫ヲ送付シ之ニ代フルコトヲ得

第十九條 艦船部隊、學校等ニ於テ兵器ノ定數變更又ハ教育訓練若ハ任務行動上定數外ニ兵器ヲ必  
要トスルトキハ當該廳長ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ處理スベシ此ノ場合工事ヲ必要トスルモノニ在リ  
テハ兵器造修規則第三十六條ノ規定ニ依リ之ヲ處理スベシ

一 定數ノ増減又ハ新ニ定數ノ設定ヲ必要トスルトキ

兵器定數變更上申(第一號書式)ヲ調製シ海軍大臣ニ上申ス

達

五九〇ノ四

0919

- 二 定數外ニ備品ノ供給ヲ必要トスルトキ  
兵器供給請求書(第一號書式)ヲ調製シ最寄海軍航空廠長ニ請求ス但シ引續キ供給ヲ請求スルモノニ在リテハ第二十條第一號ノ規定ニ準ジ處理ス
- 三 定數外ニ消耗兵器ノ供給ヲ必要トスルトキ  
消耗兵器定數外供給請求(證憑様式)ヲ用ヒ其ノ理由ヲ附記ス)ヲ最寄ノ海軍航空廠ニ爲ス  
前項第二號ノ請求書ハ別表第六號ニ掲グルモノト其ノ他ノモノトニ分チ之ヲ調製スルモノトス
- 第二十條 海軍航空廠長前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ左ノ各號ニ依リ處理スベシ
- 一 兵器供給請求ヲ受ケタルトキ
- (イ) 別表第六號ニ掲グル兵器ナルトキ  
意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達ス
- (ロ) 別表第六號ニ掲グルモノ以外ノ兵器ナルトキ  
意見ヲ附シ海軍航空本部長ニ送付ス
- 二 消耗兵器定數外供給請求ヲ受ケタルトキ  
必要アリト認ムルトキハ供給セシムルコトヲ得但シ別表第四號ニ掲グルモノ以外ノ兵器ヲ供

0920

給スル場合ニ於テハ第十八條ノ規定ニ準ジ海軍航空本部長ニ通報ス

第二十一條 海軍航空廠長艦船部隊ニ於テ基地移動ニ伴ヒ進駐基地ニ於テ別表第八號ニ掲グル基地兵器又ハ整備兵器ヲ必要トスルトキハ基地使用期間之ヲ移動部隊ニ供給セシムルコトヲ得別表第八號ニ掲グルモノ以外ノ兵器ニ付テハ第十九條第二號及第二十條第一號ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 艦船部隊海軍航空廠ト隔在スル場合又ハ役務行動上兵器簿又ハ他ノ規定ニ依リ常時保有シ得ル定數(常用、補用ノ別アルモノハ補用數)ヲ超エ消耗兵器ヲ必要トスル場合ハ其ノ三倍以内ニ限り定數外供給請求(證憑様式ヲ用ヒ其ノ理由ヲ附記ス)ヲ海軍航空廠ニ爲スベシ此ノ場合海軍航空廠長必要アリト認ムルトキハ之ヲ供給セシムルコトヲ得

第二十三條 艦船部隊海軍航空廠ト隔在スル場合又ハ役務行動上必要アル場合ハ年額定數ニ依リ供給ヲ受クベキ兵器ノ繰上渡請求(證憑様式ヲ用ヒ其ノ理由ヲ附記ス)ヲ海軍航空廠ニ爲スベシ此ノ場合海軍航空廠長必要アリト認ムルトキハ之ヲ供給セシムルコトヲ得

第二十四條 鎮守府司令長官(兵備品補給擔任應ニ在リテハ所屬長官)ハ戰時、事變又ハ治安維持上緊急處理ヲ要スル場合ニ於テ艦船部隊ガ本規程ニ依ル成規ノ手續ニ依ルノ違ナキトキハ所屬海軍航空廠長ヲシテ兵器ノ定數外供給ヲ爲サシムルコトヲ得

達

五九〇ノ六

0921

友軍部隊ニ兵器ノ供給ヲ必要トスルトキ亦前項ニ同ジ

第二十五條 海軍航空廠長前條ノ規定ニ依リ兵器備品ヲ定數外ニ供給セシメタルトキハ其ノ品名、數量及供給先ヲ第二號書式ニ依リ海軍大臣ニ報告スベシ

第二十六條 海軍航空廠長ハ海軍大臣ノ定メタル規定又ハ訓令ニ依ル兵器試験ニ要スル兵器ヲ供給セシムルコトヲ得

第二十七條 海軍工作廳ニ於テ兵器ノ試験調査、研究、實驗若ハ整備ノ爲又ハ見本トジテ兵器ヲ必要トスルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一 使用ノ結果其ノ性能ヲ變ズル虞アル兵器ナルトキ

兵器供給上申(第三號書式)ヲ調製シ最寄海軍航空廠長ヲ經テ海軍大臣ニ上申ス

二 前號以外ノトキ

兵器供給申請書(第三號書式)ヲ調製シ最寄海軍航空廠長ヲ經テ海軍航空本部長ニ申請スベシ

前項ノ上申又ハ申請ハ引續キ供給ヲ受クルモノニ在リテハ最寄海軍航空廠長ノ經由ヲ要セズ

第二十八條 海軍工作廳又ハ部外製造所ニ於テ兵器ノ製造、改造又ハ修理ノ爲在庫兵器ヲ必要トスルモノハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外前條ノ規定ヲ準用シ之ヲ處理スベシ

第二十九條 海軍航空廠ヨリ遠隔ナル地ニ行動スル艦船部隊ハ兵器ヲ相互請求スルコトヲ得此ノ場

合備品ヲ供給シタルトキハ供給シタル艦船部隊ノ長ハ速ニ其ノ品名、數量、理由等ヲ第四號書式

ニ依リ(所屬司令官及所屬長官經由)海軍大臣ニ報告スベシ

第三十條 兵備品取扱主任兵器ヲ亡失シ又ハ第五十三條ノ規定ニ依ル引換請求ノ結果修理不調若ハ

引換ト査定セラレタルトキハ兵器引換供給請求(證憑様式ヲ用ヒ記事欄ニ保管中ノ數量及請求ノ

理由ヲ附記ス)ヲ海軍航空廠ニ爲スベシ此ノ場合海軍航空廠長必要アリト認ムルトキハ在庫兵器

ヲ供給セシムルコトヲ得

第三十一條 前條ノ規定ニ依ル引換供給ノ爲現品ノ還納ヲ受ケ同日同一數量ノ供給ヲ爲シタルモノ

ニ付テハ別表第六號ニ掲グルモノ以外ノ兵器ニ限り兵備品會計規程第二十一條ノ手續ヲ省略スル

コトヲ得

前項ノ規定ニ依リ供給シタル備品ニ付テハ第十八條ノ通報ヲ要セズ

第三十二條 艦船部隊、學校等ニ於テ魚雷ヲ失踪シタルトキバ役務作業上已ムヲ得ザル場合ニ限り

海軍航空廠長ハ一時之ヲ定數外供給セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ魚雷供給通報(第五號書

式)ヲ調製シ海軍航空本部長ニ通報スベシ

達

五九〇ノ八

0923

## 第三章 還納

第三十三條 兵備品取扱主任兵器ノ還納ヲ必要トスルトキハ最寄ノ海軍航空廠兵備品會計官吏又ハ

兵備品補給主任ニ之ヲ還納スベシ

兵備品補給擔任應ニ於テ艦船部隊ヨリ還納ヲ受ケタル兵器又ハ不要ト爲リタル兵器ハ之ヲ兵備品

會計官吏ニ還納スベシ

第三十四條 兵備品取扱主任定數變更ニ依リ定數過剩ト爲リタル兵器又ハ定數外供給ヲ受ケタル備

品兵器ニシテ其ノ期間滿了ト爲リタルモノハ速ニ最寄ノ兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任ニ之

ヲ還納スベシ

第三十五條 艦船部隊、學校等ニ於テ兵器ノ改裝、改造、修理等ノ爲ニ不要ト爲リタル兵器ハ最寄ノ

兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任ニ之ヲ還納スベシ

第三十六條 兵備品取扱主任第三十條ノ規定ニ依リ兵器ノ引換供給ヲ受ケタルトキハ舊兵器ハ當該

兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任ニ之ヲ還納スベシ

第三十七條 兵備品取扱主任其ノ保管ニ係ル兵器ニシテ不要ト爲リタルモノ、主體兵器ノ亡失ニ依

リ不要ト爲リタル附屬兵器又ハ使用ノ結果不要ト爲リタル兵器若ハ兵器ノ一部ハ總テ之ヲ最寄ノ

兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任ニ還納スベシ

第三十八條 海軍航空廠長ハ艦船部隊其ノ他各部ニ供給中ノ兵器ニシテ補給上特ニ必要ナル場合ニ於テハ當該各部ノ長ト協議ノ上之ヲ還納セシムルコトヲ得

第三十九條 前六條ノ規定ニ依リ兵器ヲ還納スル場合ニ於テハ還納票ノ記事欄ニ「良品」、「損品」等必要事項ヲ記載スベシ

第四十條 兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任備品兵器ノ還納ヲ受ケタルトキハ第十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ海軍航空本部長ニ通報スベシ

#### 第四章 受入、保管轉換及補充請求

第四十一條 兵器ニシテ海軍航空本部長ノ通牒ニ依リ製造又ハ購買スルモノ及海軍省經理局長ノ契約ニ依リ購買スルモノハ當該通牒又ハ契約書ニ指定スル海軍航空廠、海軍航空廠ニ於テ購買スル兵器ハ當該海軍航空廠艦船部隊ニ於テ購買スルモノハ當該艦船部隊ニ於テ其ノ他ノモノニ付テハ第四十七條ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外海軍航空本部長ノ通牒スル所ニ依リ受入ヲ爲スベシ

第四十二條 兵備品會計官吏、兵備品補給主任又ハ兵備品取扱主任製造兵器ヲ受入ルルトキハ成品送付票購買兵器ヲ受入ルルトキハ購買兵器納票、海軍航空本部長ノ通牒ニ依リ受入ルルトキハ當

達

五九〇ノ二〇

0925



該通牒ヲ以テ證憑ト爲スコトヲ得

第四十三條 兵備品會計官吏戰時、事變等ノ場合ニ於テ現地ヨリ到着セル兵器ニシテ還納元不明又ハ書類ノ到着著シク遅延ノ爲整理ニ支障アル場合ニ於テハ現品數量ニ依リ兵器受入票（證憑様式）ヲ用ヒ其ノ理由ヲ附記ス）ヲ調製シ受入整理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ受入整理ヲ爲シタル後ニ於テ之ト異ナルコト明ト爲リタルトキハ適宜更訂スルモノトス

第四十四條 海軍航空廠長ハ保管兵器ヲ各主管ノ間ニ於テ相互流用セシムルコトヲ得但シ別表第四號ニ掲グルモノ以外ノ兵器ニ付テハ兵器流用請求書（第六號書式）ヲ調製シ豫メ海軍航空本部長ノ承認ヲ受クベシ

第四十五條 艦船部隊、學校等ニ裝備シタル物品ニシテ爾後兵器トシテノ取扱ヲ必要トスルモノアルトキハ當該艦船部隊、學校等ノ長ハ工事終了次第裝備物品調書（第七號書式）ヲ調製シ最寄ノ

海軍航空廠ヲ經テ海軍航空本部長ニ之ヲ送付スベシ

海軍航空本部長前項ノ裝備物品調書ヲ受領シタルトキハ之ヲ調査シ兵器簿定數變更ノ手續ヲ爲スモノトス

第四十六條 試験、調査、實驗、研究等ノ爲製造シタル物品ニシテ爾後兵器トシテノ取扱ヲ必要トスルモノアルトキハ當該試験、調査、實驗、研究等終了次第當該工作廳長ハ兵器ニ受入ヲ要スル物品調書(第八號書式)ヲ調製シ最寄海軍航空廠長ヲ經テ海軍航空本部長ニ之ヲ送付スベシ

海軍航空本部長前項ノ物品調書ヲ受領シタルトキハ之ヲ調査シ兵器ノ取扱ヲ必要ト認ムルトキハ適當ト認ムル海軍航空廠長ニ之ガ受入整理ニ付通牒スルモノトス

第四十七條 海軍航空廠長前二條ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外兵器ニ受入至當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ受入レ兵器ニ受入レタル物品調書(第八號書式)ヲ調製シ海軍航空本部長ニ通報スベシ  
前項ノ兵器ノ受入ニ付テハ通報寫ヲ證憑ト爲スコトヲ得

第四十八條 海軍航空廠長在庫兵器整備ノ爲消耗兵器ヲ必要トスルトキハ入手困難ナル場合ニ限り之ヲ拂出使用セシムルコトヲ得

第四十九條 海軍航空廠ニ保管スル兵器ヲ海軍航空廠間ニ相互保管轉換ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ海軍航空本部長ヲシテ之ヲ通牒セシム但シ航空廠整理兵器ハ海軍航空廠長協議ノ上相互保管轉換ヲ爲スコトヲ得

第五十條 戰時、事變其ノ他緊急ノ場合ニ於テ必要アルトキハ別表第六號ニ掲グルモノ以外ノ兵器

達

五九〇ノ一二

0927